

地域の足として貢献するために 健康のレベルアップに取り組む

豊橋鉄道株式会社



保健師の赤川さんが健康講話を行う様子

豊橋鉄道株式会社の創立は1924(大正13)年。以来、同社は新豊橋と三河田原^{みかわ たはら}を結ぶ鉄道路線(渥美線)、豊橋市のシンボルとなっている市内電車の運行を通して、地域の足として貢献してきた。現在、同社を中心とした「豊鉄グループ」は10社。鉄道事業やバス事業、タクシー事業に加えて、旅行業・建設業・ホテル業など、さまざまな分野で地域に貢献している。

同社と豊鉄バス株式会社は、昨年8月23日、「健康経営優良法人2017(中小規模法人部門)」に認定された。従業員の健康は『安全輸送・安定輸送』に必要不可欠なものであり、経営の基盤であるとの考えのもと、従業員がより元気にいきいきと業務を遂行できるように積極的な健康管理に努めていることが評価された。

今回の認定につながった同社の健康づくりを中心に、総務部副長(総務・人事担当)の森下千城^{たてき}さんと総務部主任で保健師の赤川景子さんにお話をうかがった。

健康経営優良法人認定の背景

公共交通機関の運行を事業の柱に据えている同社には、1年365日途切れることのないサービスの提供が求められている。こうした重責を担っている状況を踏まえ、森下さんは「安全輸送・安定輸送の確保を支えているのが従業員ですから、従業員の健康はそれだけ重要だと言えます。従業員が心身ともに健康で、活気ある職場づくりを推進するための支援を行っています」と同社ならびにグループ会社全体として、従業員の健康づくりを重視する姿勢を説明する。

また、保健師として豊鉄グループ全体の健康管理を一手に引き受けている赤川さんは「私が着任してから健診で要精密検査となった従業員には、必ず精密検査を受けてもらい、その結果の診断書を提出してもらうことにしました。こうした取組みが目にとまったのか、昨年、協会けんぽ愛知支部から『健康取組優良事業所』の銀賞をいただきました。この銀賞の受賞によって少し自信が付きましたので、『健康経営優良法人』の認定に応募することにしたのです」と今回の認定に至る背景を話してくれた。

認定に至った取組みの内容

今回、健康経営優良法人として認定された同社のおもな

取組みは4点。いずれも赤川さんが中心となって進めている取組みであり、そのあらましを紹介する。

・人間ドック受診の推奨と補助

定期健診の受診率100%の実績を背景に、さらに生活習慣病等を効果的に予防するには人間ドックの受診が有効との認識のもと、35歳以上の従業員を対象に、従業員に法定の健診項目に加えて胃のバリウム検査と大腸がんの検査を追加した「ミニドック」の受診を推奨している。「ミニドック」の費用は全額会社負担。

また、さらに検査項目を増やした「半日ドック」を選択することも可能で、この場合の従業員の負担は4,000円となっている。赤川さんは「35歳以上の従業員の約6割がいずれかの人間ドックを受けています。人間ドックの受診によって、病気の早期発見に効果が期待でき、長い目で見れば、生活習慣病等の疾病の芽を摘んでいると言えるのではないのでしょうか」と人間ドック推奨の効果を指摘する。

・インフルエンザ予防接種費用の助成

同社では、10月から12月までの間に、従業員がインフルエンザの予防接種を受けた場合、費用を全額負担している。この取組みについて森下さんは、「インフルエンザに罹ると仕事を休まなければなりません、特に交通系の仕事の場合、仕事に穴を空けないようにする必要があります。インフルエンザの予防には、事前の予防接種が有効ですから、会社としても1人でも多くの従業員に予防接種を受けてもらいたいので、接種費用の助成を始めました」と説明する。もちろん接種自体は任意だが、2017年には対象となる従業員(豊橋鉄道)の96.5%が予防接種費用の助成を受けたという。

・保健師による健康指導と教育

主として豊橋鉄道と豊鉄バスでは、赤川さんが、毎月、両社の安全衛生対策会議や事故防止会議に向いて、10分間程度の健康講話を行っている(写真)。「その月にふさわしいテーマを取り上げた講話を行っています。昨年は、熱中症予防対策、インフルエンザの予防対策、受動喫煙防止対策、アルコールとの上手な付き合い方などが好評でした」と赤川さん。また、赤川さんは入社3か月後の新入社員を対象に、会社への適応状況や体調などを尋ねるフォローアッ

プ面談も担当しており、離職率が高いとされる新入社員の定着率の向上に効果を上げているという。

・運輸職に対する睡眠時無呼吸症候群(SAS)

スクリーニング検査の定期的な実施

睡眠時無呼吸症候群(以下、「SAS」)が昼間の眠気を引き起こす原因となっていることはよく知られている。交通系の仕事を中心の同社と豊鉄グループ全体でも、事故の未然防止の観点から、SAS対策は見逃せない課題となってきた。そこで、同社とグループ会社では、交通系の仕事をしている運輸職の従業員を対象に、2013年からSASのスクリーニング検査を実施している。森下さんは「ハンドルを握る仕事は、お客さまの命をお預かりする仕事とも言えますので、事故は起こしてはならないものとの観点から、SASの対策に取組みました。スクリーニングにかかる費用は全額会社負担としています。今後は、スクリーニング検査後の精密検査についても、会社で費用を負担することにしました」と説明する。こうしたスクリーニングの結果、健康状態が改善した事例もあるという。事故は決して起こさないという同社のスタンスがうかがわれるのではないかと。

最後に、森下さんと赤川さんに今後の目標をたずねてみた。森下さんは「健康に対する従業員の考え方のさらなる底上げが必要と考えています。健康診断にしても、インフルエンザの予防接種にしても、『会社の指示だから受ける』ではなく、健康の重要性を自ら理解して、積極的に臨んでもらえれば、さらに効果が高まるのではないかと思います」と指摘。赤川さんは「当面の課題には、受動喫煙防止対策の充実があります。タバコを吸わない人の健康を守ることは当然ですが、タバコを吸う人の健康も守るという立場で取組みたい。最終的には、会社の敷地内禁煙、あるいは就業時間内禁煙に持っていければ」と笑顔を見せてくれた。

会社概要

豊橋鉄道株式会社
事業内容：鉄道旅客運輸事業、軌道旅客運輸事業
設立：1924年
従業員：190人（豊鉄グループ10社全体では750人）
所在地：愛知県豊橋市